

<書評>

熊本地震における神戸市の保健衛生活動報告書

長瀬有紀

長野保健福祉事務所

Kobe City health activities report  
in Kumamoto Earthquake

Aki Nagase

Nagano Public Health Office

自治体の職員にとっては、どんな部署にいても災害対応は常に心にかけていなければならない職務である。しかし、防災部局以外の部局に所属している職員にとっては、実際どのような事態が起こりうるのか、またその時に自分は何をしなくてはならないのかは、よく分からないというのが正直なところではないだろうか。

私が現在所属している保健福祉事務所は、地域における災害対策に対して中心的役割を果たすよう求められている。しかし、県や保健福祉事務所の災害マニュアルを読んだだけでは、災害の実際のイメージはなかなかつかめない。いざその場にたったときに何が必要になるのか、平時に何を準備しておけばよいのか、考えておかなくてはならないことは山ほどある（はずである）。しかし、災害訓練に参加しても、どうも今一つピンとこないというか、自分が試行錯誤して考えていることが正しいのかどうか分からない状態が続いていた。昨今、災害対応において重要視されつつあるのが、「管理」の問題だという。しかし、災害対応というとDMATの活動や避難所の様子が頭に浮かび、管理の問題の実際がイメージできずにいた。

そんなときに勧められて手にとったのが、この報告書である。この報告書を読んだとき、「ああ、それは確かに管理の問題だな」と初めてイメージができた。現場において物資、情報、支援者を「管理」というのはどういうことなのかという視点が得られたように思う。（災害というものは、一つとして同じものはないわけで、この本で述べられている活動がそっくりそのまま次の災害に生かされるということではないのだが）

実際の章立てとしては、まずは派遣調整のやりとりの実際が述べられている。4月の16日には派遣の打診があ

り、実際に派遣職員が出発するのが4月19日である。意外に時間がかかるものだなと思ったが、市役所内での調整を考えればそれでもこの位の期間がかかるものなのだろうと認識を改めた。

次の章が主な部分となる派遣職員の活動報告である。第1陣から第5陣は熊本市へ、第6陣から第11陣までは益城町に派遣を行っている。この中で派遣の活動概要と課題が述べられているわけだが、管理に関わる活動の例としては避難所世帯の調査に用いる帳票類の作成や、会議の資料作成、ロードマップの作製支援などを行っている。また、課題としてあげられているのが、“蓄積している資料が膨大であり、欲しい資料の検索に時間がかかる”、“関係各課に被災者の情報が共有されていない”な



熊本地震における神戸市の保健衛生活動報告書  
神戸市保健福祉局健康部健康政策課編集  
神戸：神戸市保健福祉局健康部健康政策課，2018.3

連絡先：長瀬有紀  
〒380-0936 長野県長野市大字中御所字岡田98-1  
98-1 Okada, Nakagosho, Nagano City, Nagano 380-0936, Japan.  
Tel: 026-223-2131  
Fax: 026-223-7669  
[平成30年7月11日受理]

## 熊本地震における神戸市の保健衛生活動報告書

どの事項である。この課題の部分を読むと、確かに“管理”の問題であり、それに対する支援が必要であることが腑に落ちる。目の前の膨大な問題の処理に追われるなかであって、情報を効率的に管理し、他部所と共有するということは相当に困難であると理解できた。

一方、活動の内容に一通り目を通して思ったのが、実際の派遣職員の仕事を受援側がどう感じているのかが分からないということである。受援側とすれば支援をうけて助かる部分は大きいであろうが、本当に支援が有効であったのか、困ったことはなかったのかも、（言いにくいことであるとは思いますが）できれば知りたいと思った。

また、活動時に感じた課題が様々に挙げられているが、そこに対する対策というのは示されていない。それぞれの課題に対して“今後どのようにしたらよいのか”という立案がなければ、今後の災害対策はより良いものになっていかないのではないか。課題を見て読者がそれぞれに対策を考える部分もあろうが、実際に現場にたった人達の考えが聞ければ尚良かったと思う。

しかし、今後の災害対策を考えていく上で、この報告書から得たものは大きかったと思う。この報告書で得られた視点をもとに、今後の災害対策をより実効性に富んだものにしていく必要があると感じている。